

令和5年12月15日
(2023年)

保護者の皆さまへ

吹田市立 第五 中学校
校長 開 康 壽

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語

《概要》

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・「言葉の意味」は全国値をやや上回っている。
- ・「漢字」は全国値を上回っている。

情報の扱い方に関する事項

- ・「インターネットの記事を読んだの気づき」は全国値をやや上回っている。
- ・「判じ絵の内容のまとめ」は全国値を下回っている。

我が国の言語文化に関する事項

- ・「本読みについて知識や経験に基づいて書く」は全国値を下回っている。
- ・「歴史的仮名遣いから現代仮名遣いに」は、全国値をやや下回っている。
- ・「古文の語句の意味」は、全国値をやや下回っている。

話すこと・聞くこと

- ・「インタビューのメモ」については、全国値とほぼ同じである。
- ・「質問の述べ方の工夫と意図の説明」は、全国値をやや下回っている。
- ・「インタビューのまとめに自分の考えを書く」は全国値をやや上回っている。

書くこと

- ・「レポート下書きの修正の意図」については全国値を上回っている。
- ・「他の判じ絵の解説の仕方を書く」については全国値をやや上回っている。

読むこと

- ・「表現の効果の説明を選ぶ」は全国値を下回っている。
- ・「読書の楽しみを選ぶ」は全国値をやや下回っている。
- ・「竹取物語の工夫を読み取る」は全国値を下回っている。

《国語科における成果と今後の改善点について》

- ・短い設問については意欲的に答え、正答も多く、無回答も少なかった。
- ・自分の意見を書く問題でも極端に正答率がさがることなく、頑張った。

＜改善点＞

- ・類似問題を繰り返して解き、気づき、解ける喜びを増やす。
- ・長文を読む、長文で答える問題も増やし、整理して考える。それをわかりやすく伝えるために、答えをどんどん書き進めていく練習もしていく。

●数学

《概要》

数と式

- ・平均正答率は、全国・府平均をやや上回っている。
- ・「数と式の計算」「等式の変形」においては、全国・府平均を上回っている。

図形

- ・平均正答率は、全国・府平均をやや上回っている。
- ・「三角形の合同の証明」においては、全国・府平均を上回っている。

関数

- ・平均正答率は、全国・府平均をやや上回っている。
- ・「比例・反比例」の意味においては全国・府平均を上回っており、「表やグラフから事柄を判断すること」においては、全国・府平均をやや上回っている。

データの活用

- ・平均正答率は、全国・府平均をともに下回っている。
- ・「箱ひげ図の箱に着目すること」においては、平均正答率が下回っている。

《数学科における成果と今後の改善点について》

- ・どの問題に対しても、全国や府と比べて無回答率はおおむね低かった。
- ・数の説明や図形の証明においても、正答率が高かった。このことから、基礎・基本的な知識・技能を活用し、表現することはできていると読み取れる。

＜改善点＞

- ・「データの活用」の分野において、表やグラフ・図から、必要な情報を適切に読み取り、問題解決につなげることに課題があった。そのため、問題解決に必要な根拠を正しく解釈させ、数学的に説明する機会を増やす。

●英語

《概要》

聞くこと

- ・情報を正確に聞くことに関してはおおむね成果が見られるが、日常的な話題に関する部分では理解度がやや低いことが課題である。

読むこと

- ・情報を正確に読み取り、文と文の関係を正確に読み取る部分に関しては一定の成果が見られるが、文章の概要や要点を捉える部分には課題がある。

書くこと

- ・自分の考えや意見、理由などをある程度書くことはできるが、依頼文のようなまとまりのある文章を書く部分については課題がある。

《英語科における成果と今後の改善点について》

- ・平均正答率は全国値をやや上回っているが、一部の問題では下回っている箇所が見られる。
- ・話すことに関する部分でも、全国値を上回っているが、質問する場面では力不足の様子が見られる。

＜改善点＞

- ・それぞれの技能領域の理解度をバランスよく高められるように工夫する。
- ・相手に質問したり自分の意見や考えをまとめたりする力の向上を目指す。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・本校では朝食をとっていない生徒の割合が、全国平均よりやや高い。
- ・毎日の寝る時間・起きる時間は、安定した生活リズムになっている生徒が多く、全国・府平均と比較して肯定的意見の割合がやや高い。
- ・「学校に行くのは楽しい」と思っている生徒の割合が、全国値・府平均と比較して高い。

【教科・学習について】

- ・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒の割合が、全国・府平均と比較してやや高い。
- ・「読書は好きですか」の問いに対して、肯定的意見の割合が全国値とほぼ同じである。
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が、昨年比べ上がり、全国値とほぼ同じである。

3 今後の取組み

今年度本校では、「自分で課題を見つける」「課題を表現する」「課題を解決する」授業づくりを進めてきました。生活の中で起こる様々な課題も、教科ごとの「見方・考え方」を生徒が意識して働かせることで、解決できる力を育める授業の工夫や、学ぶ意欲を高める授業づくりをさらに進めてまいります。

また、「朝読書」「週末課題」などの基礎学力定着や、「整理整頓」「早寝早起き」の重要性など、学習や生活の習慣を生徒が身につけられるような環境づくりに継続的に取り組んで参りました。

校内のアンケートでは、家庭学習の時にスマホやゲームなどで学習に集中できていない生徒の割合が高いことが分かっています。自立と幅広い学習の機会をつくるため、ご理解ご協力をお願いいたします。